TOKYO発

t-hatsu@tokyo-np.co.jp

実る銀座

進む「里山化」

東京の一等地・銀座の〝里山化〟が進んでいる。通りを歩いていても気がつかない。野菜畑、水田、果樹園…。デパートやビル、ブランド店などの屋上が続々と緑化しているのだ。今年から野菜販売などを通じて、都市と里山を結ぶイベントも開催。銀座が「自然との共生」の発信基地に変身しつつある。

上　「屋上でもこんなに育つ」と水田の中で満足そうな小田朝水次長＝銀座5丁目の白鶴酒造東京支社で

上右　地方の野菜などを販売し、にぎわった「ファーム・エイド銀座」＝銀座3丁目で

立派なキュウリが実った松屋銀座の畑＝銀座3丁目で

屋上で稲作、養蜂、野菜作り

ペットショップなどがある松屋銀座（銀座三丁目）の屋上。百五十平方㍍ほどが、野菜畑と芝生になっている。植えられているのは、キュウリ、ナス、ピーマン、トマト、ゴーヤーなど。「銀座グリーンプロジェクト」と称し、昨年からスタートした。

広報担当者は「社内で栽培ボランティアを募ったら、約三十人が応募。朝、夕の水やりを中心にシフトを組んで、楽しみながら育てています」と話す。

銀座五丁目の白鶴酒造東京支社では昨年から、屋上の七十平方㍍の水田で酒米を作っている。今年実験醸造の許可を取得し、酒造りも始めた。銀座初の地酒だ。小田朝水次長は「屋上での栽培は、地上よりも難しい。水がすぐに蒸発するし、風が強い」と苦労を語る。

銀座二丁目の商業ビル「マロニエゲート」も、屋上で野菜を育て、芝生を設けた。銀座進出で話題になったシャネル銀座の屋上には庭園があり、冬以外はカフェとして利用。メゾンエルメスの屋上は、一般開放はしていないが、リンゴやかんきつ類の木が約二十本植わっている。

緑化の波が押し寄せている銀座のビル屋上。ヒートアイランド対策、セミナー用、観賞用と目的はそれぞれ。ただ、きっかけの一つとして、特定非営利活動法人（NPO法人）「銀座ミツバチプロジェクト」の活動がある。松屋とマロニエゲートの広報担当者は「野菜や花は、ミツバチの採蜜（さいみつ）場作りという意図もあります」と口をそろえる。

このプロジェクトでは、二年半前から、銀座三丁目の紙パルプ会館の屋上で、はちみつを採取している。銀座産はちみつは、デパ地下やレストランで使われるなど、名物になりつつある。

この活動を通して、自然や環境の大切さに気づいた銀座で働く人たちが「銀座を里山化しよう」「環境を考える街にしよう」と動きだしたのだ。

同NPO法人は先月、紙パルプ会館で、都市と里山を結ぶイベント「ファーム・エイド銀座」を開いた。栃木や群馬などの野菜の販売や、シンポジウムなどが行われ、盛況だった。今月二十三日、十月五日、十一月二十四日にも開かれる。

高安和夫理事長は「今、銀座全体が環境問題に関心が向いている。この機に、銀座を里山化したい。屋上だけでなく、壁面も植物で覆うことだってできる」と夢を語る。

中央区では、本年度から緑化のための助成金限度額を五十万円から二百万円にまで増額した。二十三区の中では最も多い額。行政も応援する中、自然あふれる銀座の実現は夢ではないかもしれない。

文と写真・吉岡逸夫／紙面構成・岡博大